地域共生社会の実現に向けた福祉医療実践 ⑧

『海上寮療養所の地域共生社会の実現に向けた福祉医療実践』

社会福祉法人　ロザリオの聖母会　海上寮療養所
事務長　平手　栄一
精神保健福祉士　渡邉　将生

1.はじめに

海上寮療養所の歴史は古く、東京市外荏原にナザレトハウスを開設していたのを、昭和6年、医師でありカトリック司祭であった戸塚文卿師により結核療養所として九十九里浜の北端、矢指村野中（現　千葉県旭市野中）に移転して設立いたしました。病院組織に変更したのが昭和10年であり、昭和２７年には法人組織として社会福祉法人ロザリオの元后会を創設しました。戦後復興の昭和３１年には、精神神経科を併設し、高度成長期の終わりの昭和４６年に結核病棟を廃止し、精神神経科単科病院となりました。現在の標榜科は、精神科以外に内科・心療内科を加え、病床数１８９床の病院として運営をしています。

法人名は平成元年にロザリオの聖母会に改称し、医療とともに福祉も重視し、現在、身体障害、知的障害、重症心身障害医療、グループホーム、就労継続支援等を併設し、２３の施設と事業所で高齢者や、障害を持つ方々と共に歩んでいます。

2.病院基本方針

ロザリオの聖母会は、経営の母体がローマ・カトリック教会であることが最大の特色です。創設以来ずっと受け継がれる理念「光の当たりにくい人々と共に歩む」に基づき、苦しんでいる人に奉仕すること、あらゆる人の「いのち」を大切にすることが、ここで働くみんなの行動原理になっています。

そのロザリオの聖母会の医療施設として海上寮療養所はあります。特色としては、全開放性をとり、患者の自立性を尊重し、地域でいきていく為の努力を援助することで真のリハビリテーションを目指している事があげられます。

敬虔なカトリックの像

3.地域生活課題の解決に向けた地域貢献

＜地域共生のための連携＞

当院では開かれた精神科病院を目指し、全ての病棟を開放病棟とし、患者の主体性を大切に考え運営してきました。精神科の領域では『入院から地域へ』と言われるようになり久しいですが、紆余曲折がありながらも、平成の始まりの頃には『精神障害があっても地域で生活する』という考え方が浸透し始めてきたように思います。精神科における地域支援は特に重要で、医療では、外来やデイケア、訪問看護等、障害福祉サービスでは、グループホーム（共同生活援助）、作業所（就労継続支援）、ヘルパー（居宅介護）等のサービスが発展してきました。それらを組み合わせて活用し、障害をお持ちの方も安心して地域で生活できるようになり、当院でも法人内外の福祉関連事業所と連携し、地域で生活する利用者に適切なタイミングで医療を提供できるようになりました。一方で、どれだけ制度が発達しても全ての方に制度が当てはまるとは限らないことがわかってきて、フォーマルな制度で対応できない利用者への支援に行き詰まり、彼らの生活が危惧されました。その流れの中で『地域共生』、『地域包括ケア』等、障害や年齢、環境に関わらず、地域で生活するすべての人がお互いを支え合うという考え方が生まれてきましたが、ふと考えると、当法人ではその考え方に精通する経験があることに気付きました。当法人では、平成２年より年に一度、ロザリオ福祉まつりを開催し、入院患者や入所者と地域住民との交流を始め、情報発信のための広報誌の発行も始めていました。こういった継続的な経験により、地域共生という考え方は当法人としては違和感がなく、むしろ目指していた部分だったため追い風のように感じていました。当法人では、平成28年にコミュニケーションセンター『Mado-ka』を商店街に開設し、地域交流スペース、街の休憩所として地域に開放しました。地域のまつりへの参加、子ども食堂なども実施しています。この圏域では、少子高齢化、人口減少が顕著で、都会に比べると地域の社会資源も乏しい中で、Mado-kaは、誰でも利用できお互いに助け合うことができる『地域共生』というインフォーマルなサービスを体現しました。

＜精神科ピアサポーターの導入＞

精神科である当院でも、新たな試みとして、ピアサポーターの活用に注目しました。精神科ピアサポーターとは、『同じ（病気の）経験をしたことがある仲間』という意味で、患者が同じ病気を持つ当事者から話を聞くことに治療的効果があるというものです。ガン患者のピアサポートは知られるようになってきていましたが、精神科ピアサポーターはわが国ではまだ馴染みがないものでした。精神科ピアサポーターはその効果は証明されてはいましたが、制度化はされていないためにどの病院でもなかなか活用には至っていませんでした。しかし、この圏域では保健所からの呼びかけにて、平成26年から各病院の専門職や行政職員、ピアサポーターの卵たちが集まり、精神科ピアサポーター

の啓発、育成、活用などを目的に活動を開始しました。当院も当初から関わらせて頂き、ピアサポーターの概念の啓発活動として、まずは病院職員を対象に院内研修から始めました。数年かけて職員にもピアサポーターの概念が浸透し、現在では当院のデイケアにて毎月ピアサポーターをお招きし、プログラムをお願いしています。このプログラムに参加する患者も定着してきており、医師や職員には話さないような話をすることで病状も安定するなど、ピアサポーターの効果を実感しています。

おわりに

これらのように、地域共生社会を目指すことはインフォーマルなサービスを使っていることと同等の意味があり、互助的な関係による安心感、一人一人が役割を感じることでの自信の向上など、様々なメリットがあると言えるのは間違いないと思います。この互助的考え方に何か懐かしさを感じるのは、昔の日本ではこれがどの地域でも当たり前に行われていたからではないでしょうか。地域共生社会の構築に向け、新たな取り組みを始めるというよりは、古き良き時代の日本を取り戻すという感覚で良いのではないでしょうか。我々にはその力があるのですから。

海上寮療養所　外観